

大空に映える

まなびの大地



August 2026

学校だより

葉月の章

とがった言葉 まあるい心で 見つめたい

校長 今 将史

驚きの事実とその要因

本校では1学期末、いじめに関するアンケートを実施しました。回収し職員が考察しているさなか、私は保護者の方が記載してくださった内容と、職員が日ごろ話題にしている内容の共通点を見出しました。それは、日常生活の中で「死ね」「殺す」「消えろ」などの強くて攻撃性の高い言葉を使っている子が複数いるという事実でした。

これは、本校のみならず多くの小学校の共通課題であると感じてきました。そうした言葉が生じてしまう要因を、専門家の知見等から抜粋し、まとめたものを紹介します。

- 1 メディアやネット動画、ゲームや漫画等の影響とその模倣
- 2 1と同じ事由等による「死」の実感の希薄化や意味理解の不足
- 3 怒りや不快感を表す決まり文句としての活用、自己表現の未熟さ
(例:「やめろ!」ではなく「死ね!」「腹が立つ!」ではなく「消えろ!」等)
- 4 強いストレスやS O Sのサインの表出

大人ができることや配慮点

本来の意味を超え模倣や勢いで発せられた言葉が、受け手に深刻なダメージを与える。これは大きな問題です。そうした言葉を見聞きしたとき、私たち大人は、どんな接し方をすればよいでしょう。これも先の知見の中から代表的なものを紹介します。

- 5 まずは止める・見過ごさない。
- 6 相手がどう感じるか(影響)を考えさせる。
- 7 本当の気持ちを確かめ、別の言い方を考えさせる。
- 8 何か困っていること・悩んでいることはないかを尋ねる。

そんな言葉を使うな!といった禁止の指示に終始せず、問うて考えさせたり、背景を探ってみたり、これも大切な学びと関わりの機会であると考えます。先日2学期始業式では、「まあるい言葉(心)と とがった言葉(心)」というテーマで、言葉の重みや感情の整理の仕方について触れました。保護者の皆様におかれましても、とがった言葉に出合った際、上記の八つの視点や手立てを参考にいただければ幸いです。